



2023 ジェンダー平等推進プラン

～ジェンダー平等に向けた女性役員への思い～



ジェンダー平等委員会

連合山形ジェンダー平等委員会では「連合運動のすべてにジェンダー平等の視点を！」をスローガンに掲げ、新たに学習会を企画するとともに、毎年6月～7月には多くの組合員が参加するフォーラムを開催しています。また、各構成組織においても工夫を凝らした各種活動を展開中です。さまざま場所から小さなうねりを起こし、やがて「大きなうねりを皆で」作りましょう！

(ジェンダー平等委員会 委員長 齋藤 和喜) 写真: 向かって前列左から3番目

女性活躍への壁

- 職場の事務作業や雑用的なことは女性に頼む上司が多い
 - コピー、お茶出し、ファイリング等
 - どうしても事務仕事は女性に向いていると思われがち
- 女性管理職がない
 - 管理職になれるような教育等の場がない。
 - そもそも女性に務まらないと思っている男性も多い。
 - 実際不可能と思っている女性が多いのも事実。
 - 管理職になりたいと思う女性が少ない。
 - 1番最初は目立つ。今の管理職を見ると魅力がない。
- 家事・育児負担がまだまだ女性の方に偏っているため、仕事(残業、休出含む)や趣味にける時間がとれず活躍の場を逃しているのではないかと



JAM山形女性協議会

ジェンダー平等の理念の下、まだまだ課題は山積していると感じます。“女性だから”と職場では事務・雑務作業、私生活では家事育児を任せられたり、また“平等だから”と女性では無理な役割を与えられる等、この様な偏見を無くして誰もが平等に活躍できる環境を整え、意識を変えていく事が重要だと思います。(議長 伊藤 真理) 写真: 向かって中央



JP労組山形連絡協議会 山形連協女性フォーラム

私たちは、ジェンダー平等社会の実現に向け、一人ひとりが自分事として関心の持てる学びの場を作ることや、職場や生活の実態、意見を集約し政策提言として上部組織へ提出することに取り組んでおり、今後も横のつながりを大切にしながら継続していきます。



UAゼンセン山形県支部 男女共同参画推進委員会

UAゼンセン山形の男女共同参画推進委員会では、女性の働き方に趣きをおきつつ、性別の枠を超えたダイバーシティの観点で運動を進めています。大きな企画の1つとして年に一度のセミナー開催があります。女性警官や女性住職、女性の国会議員などの講演を聞き知識を高めています。もちろん、ケーキセットやレジャークラフト体験などのお楽しみは必須です。最近は、街宣活動でマイクを握ったりなどのプレゼンを磨くこともしています。委員会での企画・立案・運営を通じてメンバー個人のスキルアップに繋がっています。



県教組 女性部長 加藤 美紀

職場にいて性差別を感じるようになったのは、結婚してからでした。独身時代は、思う存分仕事をしてから帰ることができたのですが、結婚してからは、役割分担はしているものの残業分を持ち帰ることに…。働き方改革を本気で進めていくには、予算との兼ね合いが大きく、今のところ、残業は、全く減っていません。職場で性差別を感じないようになるには、男女に関係なく、8時間+30分程度の残業で退勤できるようになってからだと思います。



山形県高等学校 障がい児学校教職員組合 副委員長 安野 智穂

みんなが幸せに生きていけるよう、つらい思いをしている人をなくすよう、ジェンダー平等にかかわって教育現場からも声をあげ、未来を生きる子どもたちのためにも、日本の未来をよりよく創っていきましょう。



自治労山形県本部女性部

自治労は、性別等によらず、それぞれの個性と人権を尊重し合い、地域社会・家庭における役割と責任を分担し、誰もが平等で対等な社会の一員として、あらゆる分野で働きやすく豊かな生活を築ける環境づくりを進めています。



電力総連

「ジェンダー平等」については女性自身が都合よく解釈し、それを利用している実態も少なからず見受けられます。置かれた環境や立場・経験等によって、考え方は様々です。“女性だから”と一括りにはできませんので、ジェンダー平等への正しい理解が進捗し、性別に関わらず誰もが働きやすく、生きやすい社会になるよう私たちの組織や個人としても微力ながら取り組んでいきたいです。(東北電労山形支部特別執行委員 武田 藍) 写真: 向かって後列左端



情報労連 (NTT労組) 小川 実己

ジェンダー平等社会を目指して働く環境は変わりつつありますが、継続した取り組みが大切と考えています。私たち情報労連は男女関係なく、その人が持つ強みを最大限に生かすことができる職場環境の実現に向けて取り組んで参ります。



電機連合山形地協 (クアーズテック労組小国支部) 執行委員長 齋藤 美穂

以前より女性役員選出課題とされてきた「仕事と家庭生活、組合活動との両立」は、近年、性別にかかわらず課題であると指摘されています。私は、老若男女問わず参加しやすい、楽しい組合活動を目指していきたいです。



労済労連 全労済労働組合 北海道・東北支部 山形分会 分会事務局長 岩本 亜樹

労働組合役員の女性比率、育児休業取得率の男女差、ジェンダー・バイアスの払拭など、課題は多くあります。まずは、組合役員として、自分自身が偏った考えになっていないかを意識して行動し、ジェンダー平等に関わる取り組みが、周りに波及していくよう努めます。



酒田飽海 地域協議会 舘岐 真利

女性が、一人の人間として安心して健康で差別されることなく働き続けられる社会・職場づくりのために取り組んでいきたいと思っています。病院職場でも、人員不足による激務に家庭・個人の事情が重なり、定年退職が毎年起きています。みんなで課題を共有し、改善に向けて一歩前へ進めたい。



JAM スタンレー鶴岡製作所労働組合

個人の考えや思いを自由に表現できる、尊重できる体制・雰囲気作りには、普段からのコミュニケーションが大切であると感じています。ジェンダー平等の社会実現に向け、お互いに伝え合い・認め合い、支え合う活動に取り組み、発信していきましょう！(連合鶴岡田川地域協議会 女性委員会委員長 板垣 莉里子) 写真: 向かって右から2番目



新庄最上 地域協議会 女性委員長 酒井 珠枝

ジェンダー平等の問題は女性の生きづらさに焦点が当たりがちですが、広い視点で見ると、ステレオタイプな男らしさの価値観によって男性でも生きづらさを感じている人もいます。誰もが性別にとらわれず自由に生きることのできる社会の実現を望みます。



山形地協女性委員会

輝きながら「自分らしく」生きていきたい。差別や偏見のないジェンダー平等社会の実現に向けて、私たち連合山形地協女性委員会は、ともに学び、ともに行動し、誰もが幸せを実感できる「明るい未来」への扉を開けていきます！



置賜地域協議会 事務局次長 若月 由紀

ジェンダー平等を推進するにあたり、自組織での活動や連合山形置賜地域協議会幹事会活動において、まずは男女間格差の現状と課題を共有しながら、身近で出来ることを模索し、一歩でも前進出来る様提言していきたいと思っています。

